

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

データ収集方法に関して

◆国立国会図書館サーチ（NDL SEARCH）にて、

「資料種別」の選択肢が、「図書」「雑誌」「新聞」「電子書籍・電子雑誌」など種々ある中で、「図書」を選択。

「編者・著者」の欄には、「佐藤愛子」と入力。

「資料形態」には、「デジタル」「マイクロ」「紙」「記録メディア」と種類があるが、「紙」にチェックを入れる。

この条件で検索すると 562 件 がヒット。

その一覧から手作業で、同姓同名の別人物の作品を削除。

さらに、その中から、「佐藤愛子」が著者名として印刷されているであろう作品だけを、
目視で選別。

なお、同タイトルの作品を、異なる年度、出版社から上梓している場合、
それを 1 冊とカウントした。

例えば『加納大尉夫人』は今回の一覧によると、7 回上梓されている。

これは、TBS・ポーラ※テレビ小説『安ベエの海』として、テレビドラマ化されている。

結果は、計 416 件。

2025 年 11 月 18 日現在。

※ポーラは、現存する化粧品会社

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

1. 『百一歳。終着駅のその先へ』 中央公論新社、2025年3月。
2. 『老いはヤケクソ』 リベラル社 星雲社、2025年1月。
3. 『鼓笛隊物語』 潮出版社、2024年11月。
4. 『百歳もヘチマもあるものか。』 プレジデント社、2024年9月。
5. 『まだ生きている』 リベラル社 星雲社、2024年7月。
6. 『気がつけば、終着駅』 中央公論新社、2024年6月。
7. 『九十八歳。戦いやまず日は暮れず』 小学館、2024年5月。
8. 『人生は美しいことだけ憶えていればいい』 PHP研究所、2024年4月。
9. 『これだけ言って死にたい』 コスミック出版、2024年4月。
10. 『老い力』 リベラル社 星雲社、2024年1月。
11. 『かくて老兵は消えてゆく』 埼玉福祉会、2023年11月。
12. 『思い出の屑籠』 中央公論新社、2023年11月。
13. 『そもそもこの世を生きるとは』 リベラル社 星雲社、2023年7月。
14. 『愛子戦記：佐藤愛子の世界』 文藝春秋、2023年6月。
15. 『女の背ぼね』 リベラル社 星雲社、2023年3月。
16. 『幸福とは何ぞや』 中央公論新社、2022年9月。
17. 『ああ面白かったと言って死にたい』 コスミック出版、2022年9月。
18. 『風の行方. 下』 文藝春秋、2022年6月。
19. 『風の行方. 上』 文藝春秋、2022年6月。
20. 『凧の光景』 文藝春秋、2022年1月。
21. 『愛子の格言』 中央公論新社、2021年11月。
22. 『冥界からの電話』 新潮社、2021年8月。
23. 『佐藤愛子の役に立たない人生相談』 ポプラ社、2021年8月。
24. 『九十八歳。戦いやまず日は暮れず』 小学館、2021年8月。
25. 『九十歳。何がめでたい』 小学館、2021年8月。
26. 『何がおかしい』 中央公論新社、2020年11月。
27. 『それでもこの世は悪くなかった』 埼玉福祉会、2020年11月。
28. 『気がつけば、終着駅』 中央公論新社、2019年12月。
29. 『ガムシャラ人間の心得』 海竜社、2019年8月。
30. 『人生は美しいことだけ憶えていればいい』 PHP研究所、2019年4月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

31. 『孫と私のケッタイな年賀状』文藝春秋、2019年1月。
32. 『神さまのお恵み』青志社、2018年12月。
33. 『冥界からの電話』新潮社、2018年11月。
34. 『日めくり佐藤愛子の人生のコツ』扶桑社、2018年1月。
35. 『樂天道』海竜社、2018年8月。
36. 『女優万里子』小学館、2018年6月。
37. 『役に立たない人生相談. 2』ポプラ社、2018年5月。
38. 『冥途のお客』青志社、2018年4月。
39. 『加納大尉夫人/オンバコのトク』めるくまーる、2018年4月。
40. 『老い力』海竜社、2018年4月。
41. 『ソクラテスの妻』小学館、2018年3月。
42. 『こんな生き方もある』KADOKAWA、2018年1月。
43. 『血脉. 下』文藝春秋、2017年12月。
44. 『血脉. 中』文藝春秋、2017年12月。
45. 『血脉. 上』文藝春秋、2017年12月。
46. 『愛子の小さな冒険』青志社、2017年11月。
47. 『晩鐘. 下』文藝春秋、2017年9月。
48. 『晩鐘. 上』文藝春秋、2017年9月。
49. 『戦いすんで日が暮れて』講談社、2017年9月。
50. 『こんな老い方もある』KADOKAWA、2017年9月。
51. 『お徳用愛子の詰め合わせ：週刊文春版』文藝春秋、2017年8月。
52. 『破れかぶれの幸福』青志社、2017年7月。
53. 『冥途のお客：夢か現か、現か夢か』埼玉福祉会、2017年6月。
54. 『犬たちへの詫び状』PHP研究所、2017年4月。
55. 『上機嫌の本』PHP研究所、2017年3月。
56. 『それでもこの世は悪くなかった』文藝春秋、2017年1月。
57. 『人間の煩悩』幻冬舎、2016年9月。
58. 『九十歳。何がめでたい』小学館、2016年8月。
59. 『佐藤愛子の役に立たない人生相談』ポプラ社、2016年6月。
60. 『院長の恋』埼玉福祉会、2016年6月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

61. 『孫と私の小さな歴史』文藝春秋、2016年1月。
62. 『かくて老兵は消えてゆく』文藝春秋、2015年9月。
63. 『晩鐘』文藝春秋、2014年12月。
64. 『楽天道』文藝春秋、2014年11月。
65. 『これでおしまい』文藝春秋、2014年5月。
66. 『女の背ぼね』文藝春秋、2014年3月。
67. 『そもそもこの世を生きるとは』海竜社、2014年2月。
68. 『かくて老兵は消えてゆく』文藝春秋、2013年8月。
69. 『お徳用愛子の詰め合わせ』文藝春秋、2013年6月。
70. 『幸福とは何ぞや：佐藤愛子の箴言』海竜社、2013年3月。
71. 『老兵の消燈ラッパ』文藝春秋、2012年9月。
72. 『ああ面白かったと言って死にたい：佐藤愛子の箴言集』海竜社、2012年7月。
73. 『院長の恋』文藝春秋、2012年3月。
74. 『私の遺言. 上』埼玉福祉会、2011年12月。
75. 『私の遺言. 下』埼玉福祉会、2011年12月。
76. 『老兵の進軍ラッパ』文藝春秋、2011年11月。
77. 『これでおしまい：我が老後』文藝春秋、2011年11月。
78. 『今は昔のこんなこと』文藝春秋、2011年5月。
79. 『幸福の絵』集英社、2011年2月。
80. 『お徳用愛子の詰め合わせ』文藝春秋、2011年1月。
81. 『老い力』文藝春秋、2010年11月。
82. 『わが孫育て』文藝春秋、2010年6月。
83. 『老兵の消燈ラッパ』文藝春秋、2010年3月。
84. 『花は六十』集英社、2010年3月。
85. 『楽天道』海竜社、2009年9月。
86. 『まだ生きている：我が老後 6』文藝春秋、2009年9月。
87. 『日本人の一大事』集英社、2009年5月。
88. 『女の背ぼね』海竜社、2009年2月。
89. 『院長の恋』文藝春秋、2009年1月。
90. 『こんなことでよろしいか：老兵の進軍ラッパ』集英社、2008年7月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

91. 『佐藤家の人びと：「血脉」と私』文藝春秋、2008年5月。
92. 『愛子とピーコの「あの世とこの世」』文藝春秋、2008年3月。
93. 『わが孫育て』文藝春秋、2008年1月。
94. 『老い力』海竜社、2007年1月。
95. 『冥途のお客』文藝春秋、2007年9月。
96. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集.8』集英社、2007年8月。
97. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集.7』集英社、2007年7月。
98. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集.6』集英社、2007年6月。
99. 『戦いすんで日が暮れて. 上』埼玉福祉会、2007年5月。
100. 『戦いすんで日が暮れて. 下』埼玉福祉会、2007年5月。
101. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集.5』集英社、2007年5月。
102. 『今は昔のこんなこと』文藝春秋、2007年5月。
103. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集.4』集英社、2007年4月。
104. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集.3』集英社、2007年3月。
105. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集.2』集英社、2007年2月。
106. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集.1』集英社、2007年1月。
107. 『まだ生きている：我が老後』文藝春秋、2006年1月。
108. 『それからどうなる』文藝春秋、2006年8月。
109. 『犬たちへの詫び状』文藝春秋、2005年12月。
110. 『私の遺言』新潮社、2005年1月。
111. 『「血脉」と私』文藝春秋、2005年1月。
112. 『血脉. 中』文藝春秋、2005年1月。
113. 『血脉. 上』文藝春秋、2005年1月。
114. 『血脉. 下』文藝春秋、2005年1月。
115. 『不敵雑記：たしなみなし』集英社、2004年11月。
116. 『日本人の一大事』海竜社、2004年11月。
117. 『冥途のお客：夢か現か、現か夢か』光文社、2004年9月。
118. 『それからどうなる：我が老後』文藝春秋、2004年8月。
119. 『そして、こうなった』文藝春秋、2003年8月。
120. 『老残のたしなみ：日々是上機嫌』集英社、2003年4月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

121. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集. 4』集英社、2002年12月。
122. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集. 3』集英社、2002年11月。
123. 『私の遺言』新潮社、2002年1月。
124. 『不運は面白い幸福は退屈だ：人間についての断章 326』集英社、2002年1月。
125. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集. 2』集英社、2002年1月。
126. 『加納大尉夫人』埼玉福祉会、2002年1月。
127. 『これが佐藤愛子だ：自讃ユーモアエッセイ集. 1』集英社、2002年9月。
128. 『不敵雑記：たしなみなし』集英社、2001年11月。
129. 『犬たちへの詫び状』PHP研究所、2001年4月。
130. 『血脉. 下』文藝春秋、2001年3月。
131. 『大黒柱の孤独』集英社、2001年2月。
132. 『血脉. 中』文藝春秋、2001年2月。
133. 『血脉. 上』文藝春秋、2001年1月。
134. 『だからこうなるの』文藝春秋、2000年12月。
135. 『こたつの人』集英社、2000年1月。
136. 『そして、こうなった：我が老後』文藝春秋、2000年9月。
137. 『老残のたしなみ：日々是上機嫌』集英社、2000年3月。
138. 『我が老後』埼玉福祉会、1999年1月。
139. 『風の行方. 下』集英社、1999年8月。
140. 『風の行方. 上』集英社、1999年8月。
141. 『不運は面白い幸福は退屈だ：人間についての断章 327』海竜社、1999年7月。
142. 『虹は消えた』角川書店、1999年5月。
143. 『萩あらし：句集』東京四季出版、1999年2月。
144. 『結構なファミリー』集英社、1998年11月。
145. 『なんでこうなるの：我が老後』文藝春秋、1998年9月。
146. 『佐藤愛子・田辺聖子』角川書店、1998年9月。
147. 『戦いやまず日は西に』集英社、1998年6月。
148. 『幸福のかたち』角川春樹事務所、1998年6月。
149. 『だからこうなるの：我が老後』文藝春秋、1997年11月。
150. 『娘と私と娘のムスメ』集英社、1997年1月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

151. 『その時がきた』中央公論社、1997年8月。
152. 『風の行方. 下』毎日新聞社、1997年8月。
153. 『風の行方. 上』毎日新聞社、1997年8月。
154. 『幸福の里』読売新聞社、1997年6月。
155. 『女の学校』埼玉福祉会、1997年5月。
156. 『我が老後』文芸春秋、1997年3月。
157. 『死ぬための生き方』集英社、1997年2月。
158. 『上機嫌の本』PHP研究所、1996年5月。
159. 『結構なファミリー』日本放送出版協会、1996年5月。
160. 『人生って何なんだ!』集英社、1996年3月。
161. 『なんでこうなるの：我が老後』文芸春秋、1995年12月。
162. 『虹は消えた』角川書店、1995年11月。
163. 『幸福の絵』埼玉福祉会、1995年5月。
164. 『娘と私と娘のムスメ』立風書房、1995年4月。
165. 『戦いやまず日は西に』海竜社、1995年3月。
166. 『耳の中の声』中央公論社、1995年2月。
167. 『遠い歳月』日曜随筆社、1995年2月。
168. 『憤怒のぬかるみ：さんざんな男たち女たち』集英社、1995年1月。
169. 『ヴァージン』角川書店、1994年11月。
170. 『娘と私と娘のムスメ』学習研究社、1994年1月。
171. 『男と女のしあわせ関係』集英社、1994年5月。
172. 『わかる数学入門：集合・論理・線形代数』共立出版、1994年2月。
173. 『窓は茜色』中央公論社、1993年1月。
174. 『自讃ユーモア短篇集. 下』集英社、1993年1月。
175. 『自讃ユーモア短篇集. 上』集英社、1993年1月。
176. 『淑女失格：私の履歴書』集英社、1993年1月。
177. 『死ぬための生き方』海竜社、1993年8月。
178. 『我が老後』文芸春秋、1993年6月。
179. 『こんな老い方もある』角川書店、1993年5月。
180. 『娘と私の部屋』埼玉福祉会、1992年12月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

181. 『こんなふうに死にたい』 新潮社、1992年12月。
182. 『神さまのお恵み』 PHP研究所、1992年11月。
183. 『日当りの椅子』 PHP研究所、1992年1月。
184. 『こんな女もいる』 角川書店、1992年9月。
185. 『老兵は死なず』 PHP研究所、1992年6月。
186. 『メッタ斬りの歌』 集英社、1992年5月。
187. 『上機嫌の本』 PHP研究所、1992年3月。
188. 『凧の光景. 下』 集英社、1992年1月。
189. 『凧の光景. 上』 集英社、1992年1月。
190. 『こんな暮らし方もある』 角川書店、1992年1月。
191. 『こんな幸福もある』 海竜社、1991年12月。
192. 『マリアの恋』 中央公論社、1991年11月。
193. 『ヴァージン』 実業之日本社、1991年11月。
194. 『花はくれない：小説・佐藤紅緑』 埼玉福祉会、1991年1月。
195. 『女の怒り方』 集英社、1991年9月。
196. 『何がおかしい』 角川書店、1991年7月。
197. 『現代の小説. 1991』 徳間書店、1991年5月。
198. 『こんな老い方もある』 海竜社、1990年11月。
199. 『今どきの娘ども』 集英社、1990年11月。
200. 『夕やけ小やけでまだ日は暮れぬ』 角川書店、1990年8月。
201. 『淑女失格：私の履歴書』 日本経済新聞社、1990年8月。
202. 『人生って何なんだ!』 中央公論社、1990年6月。
203. 『虹が…』 角川書店、1990年1月。
204. 『ひとりぼっちの鳩ポッポ』 集英社、1989年12月。
205. 『愛子の新・女の格言』 角川書店、1989年11月。
206. 『樹齢：句集』 東京四季出版、1989年7月。
207. 『娘と私のただ今のご意見』 集英社、1989年6月。
208. 『こんな女でなくっちゃ：好きになったら別れるまで』 青春出版社、1989年5月。
209. 『女の怒り方：その習生その触覚その性癖』 青春出版社、1989年5月。
210. 『マドリッドの春の雨』 角川書店、1989年1月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

211. 『耳の中の声』 中央公論社、1988年12月。
212. 『凧の光景』 朝日新聞社、1988年1月。
213. 『夢かと思えば：エッセイ集』 立風書房、1988年9月。
214. 『テキストブック基礎数学. 1』 日本理工出版会、1988年9月。
215. 『老兵は死なず』 角川書店、1988年6月。
216. 『幸福という名の武器』 集英社、1988年6月。
217. 『窓は茜色』 中央公論社、1988年3月。
218. 『さんざんな男たち女たち：憤怒のぬかるみ』 青春出版社、1988年2月。
219. 『ウララ町のうららかな日』 新潮社、1988年2月。
220. 『こんな考え方もある』 角川書店、1988年1月。
221. 『バラの木にバラの花咲く』 集英社、1987年12月。
222. 『こんなふうに死にたい』 新潮社、1987年11月。
223. 『スニヨンの一生』 文芸春秋、1987年1月。
224. 『こんないき方もある』 角川書店、1987年1月。
225. 『今どきの娘ども』 集英社、1987年1月。
226. 『社会教育と自己形成：「終焉」論を超えて』 明石書店、1987年5月。
227. 『こんな暮らし方もある』 海竜社、1987年5月。
228. 『古川柳ひとりよがり』 集英社、1987年5月。
229. 『夕やけ小やけでまだ日は暮れぬ』 実業之日本社、1987年4月。
230. 『ミチルとチルチル』 中央公論社、1987年4月。
231. 『日当りの椅子』 角川書店、1987年1月。
232. 『ひとりぼっちの鳩ポッポ』 読売新聞社、1986年9月。
233. 『花は六十』 集英社、1986年9月。
234. 『娘と私のただ今のご意見』 集英社、1986年7月。
235. 『虹が…』 角川書店、1986年7月。
236. 『男はたいへん』 集英社、1986年1月。
237. 『老兵は死なず』 読売新聞社、1985年12月。
238. 『男の結び目』 大和書房、1985年12月。
239. 『丸裸のおはなし』 大和書房、1985年11月。
240. 『バラの木にバラの花咲く』 集英社、1985年7月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

241. 『男と女のしあわせ関係』青春出版社、1985年6月。
242. 『躁病のバイキン』光文社、1985年5月。
243. 『男友だちの部屋』集英社、1985年5月。
244. 『マドリッドの春の雨』角川書店、1985年4月。
245. 『幸福の終列車』光文社、1985年4月。
246. 『男たちの肖像』集英社、1985年2月。
247. 『幸福という名の武器』海竜社、1985年1月。
248. 『うらら町字ウララ』新潮社、1984年12月。
249. 『人生・男・女：愛子のつぶやき 370』文化出版局、1984年11月。
250. 『ミチルとチルチル』中央公論社、1984年1月。
251. 『娘と私の天中殺旅行』集英社、1984年9月。
252. 『スニヨンの一生』文芸春秋、1984年8月。
253. 『古川柳ひとりよがり』読売新聞社、1984年6月。
254. 『女はおんな』集英社、1984年3月。
255. 『花はいろいろ』集英社、1983年12月。
256. 『愛子の獅子奮迅』集英社、1983年9月。
257. 『枯れ木の枝ぶり』角川書店、1983年7月。
258. 『日当りの椅子』文化出版局、1983年6月。
259. 『幸福の絵』集英社、1983年4月。
260. 『男たちの肖像』集英社、1983年3月。
261. 『むつかしい世の中』角川書店、1983年1月。
262. 『躁病のバイキン』読売新聞社、1982年1月。
263. 『女の怒り方：その習性その触覚その性癖』青春出版社、1982年1月。
264. 『あなたの盛衰記』集英社、1982年1月。
265. 『男はたいへん』集英社、1982年9月。
266. 『こちら2年A組』秋元書房、1982年7月。
267. 『娘と私のアホ旅行』集英社、1982年5月。
268. 『こんな幸福もある』角川書店、1982年5月。
269. 『娘と私の天中殺旅行』集英社、1982年4月。
270. 『こんな考え方もある』海竜社、1982年4月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

271. 『たいへんだア青春』集英社、1982年3月。
272. 『日本人の感覚と生活：適度な環境をさぐる』ナカニシヤ出版、1982年2月。
273. 『愛子の新・女の格言』角川書店、1982年1月。
274. 『愛子の小さな冒険』角川書店、1981年1月。
275. 『男友だちの部屋』集英社、1981年9月。
276. 『あなたの盛衰記』光風社出版、1981年8月。
277. 『丸裸のおはなし』集英社、1981年7月。
278. 『憤激の恋』角川書店、1981年6月。
279. 『一天にわかにかき曇り』角川書店、1981年5月。
280. 『父母の教え給いし歌』集英社、1981年4月。
281. 『躁鬱旅行』角川書店、1981年4月。
282. 『こんないき方もある』海竜社、1981年4月。
283. 『愛子の小さな冒険』光風社出版、1981年3月。
284. 『花はくれない：小説佐藤紅緑』講談社、1981年2月。
285. 『女はおんな』集英社、1981年2月。
286. 『或るつばくろの話』角川書店、1981年2月。
287. 『愛子の百人斬り』角川書店、1981年2月。
288. 『愛子の日めくり総まくり』集英社、1981年1月。
289. 『加納大尉夫人』角川書店、1980年12月。
290. 『娘と私のアホ旅行』集英社、1980年11月。
291. 『さて男性諸君』角川書店、1980年11月。
292. 『男の結び目』集英社、1980年11月。
293. 『坊主の花かんざし.4』集英社、1980年1月。
294. 『忙しいダンディ』角川書店、1980年1月。
295. 『束の間の夏の光よ』角川書店、1980年9月。
296. 『九回裏』光風社出版、1980年9月。
297. 『坊主の花かんざし.3』集英社、1980年8月。
298. 『總統のセレナード』角川書店、1980年8月。
299. 『奮闘旅行』光風社出版、1980年7月。
300. 『九回裏』角川書店、1980年7月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

301. 『黄昏夫人』角川書店、1980年6月。
302. 『坊主の花かんざし. 2』集英社、1980年5月。
303. 『朝雨女のうでまくり』角川書店、1980年5月。
304. 『アメリカ座に雨が降る』角川書店、1980年4月。
305. 『ぼた餅のあと：他五篇』角川書店、1980年3月。
306. 『坊主の花かんざし. 1』集英社、1980年3月。
307. 『枯れ木の枝ぶり』文化出版局、1980年3月。
308. 『男の学校』集英社、1980年2月。
309. 『むつかしい世の中』作品社、1980年1月。
310. 『悲しき恋の物語』角川書店、1980年1月。
311. 『女の庭』光風社出版、1980年1月。
312. 『忙しい奥さん』角川書店、1979年12月。
313. 『娘と私の時間』集英社、1979年11月。
314. 『一番淋しい空』角川書店、1979年11月。
315. 『詩の花びら：童謡から現代詩まで』芸風書院、1979年1月。
316. 『女の学校』集英社、1979年9月。
317. 『愛子のおんな大学』講談社、1979年6月。
318. 『幸福の絵』新潮社、1979年3月。
319. 『女優万里子』集英社、1979年1月。
320. 『娘と私の時間』集英社、1978年1月。
321. 『坊主の花かんざし. 4』読売新聞社、1978年1月。
322. 『娘と私の部屋』集英社、1978年9月。
323. 『坊主の花かんざし. 3』読売新聞社、1978年8月。
324. 『坊主の花かんざし. 2』読売新聞社、1978年8月。
325. 『坊主の花かんざし. 1』読売新聞社、1978年8月。
326. 『一天にわかにかき曇り』文化出版局、1978年5月。
327. 『赤鼻のキリスト』集英社、1978年5月。
328. 『男の学校』毎日新聞社、1978年3月。
329. 『八重歯のあいつ』集英社、1978年1月。
330. 『こんな幸福もある』海竜社、1977年12月。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

331. 『私のなかの男たち』 講談社、1977年9月。
332. 『娘と私の部屋』 立風書房、1977年9月。
333. 『天気晴朗なれど』 集英社、1977年9月。
334. 『雨が降らねば天気はよい』 集英社、1977年8月。
335. 『鎮魂歌』 集英社、1977年6月。
336. 『好きになっちゃった』 集英社、1977年6月。
337. 『坊主の花かんざし 続々』 読売新聞社、1977年5月。
338. 『女の学校』 毎日新聞社、1977年4月。
339. 『微笑みのうしろに』 集英社、1977年3月。
340. 『坊主の花かんざし 続』 読売新聞社、1976年。
341. 『花はくれない：小説・佐藤紅緑』 講談社、1976年。
342. 『黄昏夫人』 実業之日本社、1976年。
343. 『黄昏の七つボタン』 講談社、1976年。
344. 『青春はいじわる』 集英社、1976年。
345. 『悲しき恋の物語』 每日新聞社、1976年。
346. 『一番淋しい空』 読売新聞社、1976年。
347. 『朝雨女のうでまくり』 文化出版局、1976年。
348. 『マッティと大ちゃん』 秋元書房、1975年。
349. 『坊主の花かんざし』 読売新聞社、1975年。
350. 『父母の教え給いし歌』 文芸春秋、1975年。
351. 『ただいま初恋中』 秋元書房、1975年。
352. 『黄昏の七つボタン』 講談社、1975年。
353. 『その時がきた』 中央公論社、1975年。
354. 『加納大尉夫人』 光風社書店、1975年。
355. 『女の鼻息男の吐息：愛子闘論』 立風書房、1975年。
356. 『女の庭・ソクラテスの妻』 光風社書店、1975年。
357. 『男の結び目』 大和書房、1975年。
358. 『おかしくない本：犬が西向いても…』 ベストセラーズ、1975年。
359. 『あんない盛衰記』 光文社、1975年。
360. 『私のなかの男たち』 講談社、1974年。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

361. 『愉快なやつ』秋元書房、1974年。
362. 『まんなか娘』秋元書房、1974年。
363. 『丸裸のおはなし』大和書房、1974年。
364. 『ぼた餅のあと』番町書房、1974年。
365. 『美人の転校生』秋元書房、1974年。
366. 『戦いすんで日が暮れて』講談社、1974年。
367. 『ソクラテスの妻』中央公論社、1974年。
368. 『女優万里子』文芸春秋、1974年。
369. 『困ったなア』集英社、1974年。
370. 『おさげとニキビ』秋元書房、1974年。
371. 『豚は天国へ行く』広済堂出版、1973年。
372. 『天気晴朗なれど』広済堂出版、1973年。
373. 『黄昏の七つボタン』講談社、1973年。
374. 『ソクラテスの妻』成瀬書房、1973年。
375. 『忙しい奥さん』読売新聞社、1973年。
376. 『或るつばくろの話』講談社、1973年。
377. 『愛子のおんな大学』講談社、1973年。
378. 『愛子』角川書店、1973年。
379. 『破れかぶれの幸福』白馬出版、1972年。
380. 『鎮魂歌』文芸春秋、1972年。
381. 『躁鬱旅行』光文社、1972年。
382. 『アメリカ座に雨が降る』講談社、1972年。
383. 『赤鼻のキリスト：津軽風流譚』光文社、1972年。
384. 『愛子の風俗まんだら』朝日新聞社、1972年。
385. 『マッティと大ちゃん』講談社、1971年。
386. 『天気晴朗なれど』読売新聞社、1971年。
387. 『その時がきた』中央公論社、1971年。
388. 『さよならのうしろに』講談社、1971年。
389. 『九回裏』文芸春秋、1971年。
390. 『加納大尉夫人』講談社、1971年。

佐藤愛子・著作一覧

作成：小倉 一純

391. 『愛子の小さな冒険』文芸春秋、1971年。
392. 『ああ戦いの最中に』講談社、1971年。
393. 『戦いすんで日が暮れて』講談社、1970年。
394. 『三十点の女房：隨筆集』講談社、1970年。
395. 『おしゃれ失格：佐藤愛子隨想集』みゆき書房、1970年。
396. 『赤い夕日に照らされて』講談社、1970年。
397. 『ああ戦友』文芸春秋、1970年。
398. 『母について：詩集』詩宴社、1969年。
399. 『戦いすんで日が暮れて』講談社、1969年。
400. 『青春はいじわる』集英社、1969年。
401. 『鼓笛隊物語』潮出版社、1969年。
402. 『加納大尉夫人』講談社、1969年。
403. 『女の庭』光風社書店、1969年。
404. 『忙しいダンディ』講談社、1969年。
405. 『愛子』読売新聞社、1969年。
406. 『微笑みのうしろに』集英社、1968年。
407. 『さて男性諸君』立風書房、1968年。
408. 『美人の転校生』秋元書房、1967年。
409. 『花はくれない：小説佐藤紅緑』講談社、1967年。
410. 『まんなか娘』秋元書房、1965年。
411. 『加納大尉夫人』光風社、1965年。
412. 『美人の転校生』秋元書房、1964年。
413. 『愉快なやつ』秋元書房、1963年。
414. 『ソクラテスの妻』光風社、1963年。
415. 『おさげとニキビ』秋元書房、1962年。
416. 『愛子』現代社、1959年。

以上